

法・政治・経済分野（人文・社会科学科目群）

① 法学関係科目の分類

全学共通科目の法学系科目は、広く法学全体の導入・案内をおこなう基礎的・入門的科目（「基礎」）、いくぶん主題や方法を限定して発展的・専門的内容をあつかう科目や少人数での講読・プレゼンテーションを中心にすすめられる基礎ゼミナール（「各論」）の二種類から構成されている。またこれと合わせ、基礎ゼミナール同様少人数でのきめ細かな指導をめざすILASセミナーも提供する。

ILASセミナーは、前期のみの開講である。現代・過去の法律問題、あるいは社会的・経済的・政治的問題にも広く題材を求めつつ、大学での学習全般への手引き（文献資料の探し方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方など）を提供する。人文・社会科学系科目の基本的な学習技術を身につけ、この分野への関心を喚起・発展させる機会として活用してもらいたい。

基礎科目・各論科目はいずれも、専門課程において法学を専攻する予定の受講者（法学部生）にとってはその後の法学学習の導入・基礎固めとしての役割を果たすいっぽうで、それ以外の受講者にとっては社会生活上求められる法律に関する基本的な知識と考え方を示すとともに、他の学習分野・学問領域との関連について広い視野を得る機会を提供する。法学それ自体はたくさんの細分化された専門領域からなる広大な学問領域であり、全学共通科目のなかでその全貌を紹介することは不可能であるが、そこに通底する共通の発想や関心のあり方に触れていただき、今後の学習と生活に役立てていただきたいと考えている。

基礎科目は、主として法学についての特別な基礎知識をもたない初学者を前提に、法学学習者に求められる最も基礎的な知識・技術を提供し、特有の発想に親しんでもらうことをめざす。憲法、民法、刑法や民事・刑事訴訟法、行政法、労働法等々個別の法領域だけでなく、六法や判例をはじめとする法情報へのアクセス方法、専門用語に関する基礎的な理解、条文解釈の方法等を提示して、法律・法学への広くバランスのとれた見方を身につけてもらいたいと考えている。

各論科目は、各担当教員の専攻する研究領域に近い内容に特化することで、諸君の関心に応じた受講が可能になっている（とはいえ、特別な予備知識がなくても受講できるように配慮がなされている）。個々の講義内容は担当教員や開講年次等によって異なるので、くわしくはシラバスで確認してほしい。

なお、科目・担当教員によっては、指定教科書や参考図書のほかに、六法（『ポケット六法』等のハンディ版）や用語辞典、法令用語の概説書等の携行・参照が求められる場合がある。

一般に法律の世界、法学という学問に対しては、杓子定規で堅苦しいというイメージがつきまといがちだが、実際には、きわめて幅の広い想像力と柔軟な創造力を求められる領域でもある。法学特有のものの方・考え方に触れることを通じて、諸君の視野と関心を広げていく一助としてほしい。

② 政治学関係科目の分類

政治学系科目は、日本をはじめとする先進国における政治の実態や歴史、あるいは、発展途上国を含めた政治的発展の歴史と理論、さらには国際政治の実態や歴史について学びながら、政治学に関する基本的な概念や理論を理解し、それにもとづいて現実の政治現象を解釈・分析できるようになることを目指している。

「基礎論」は、「政治学Ⅰ」および「政治学Ⅱ」などからなる。これらの講義では、政治学における基本概念（民主主義、権力、政治体制など）について説明するとともに、これまで展開されてきた政治学の理論にもとづく政治現象の分析を紹介する。

「各論」は、「国際政治論Ⅰ」、「国際政治論Ⅱ」、「公共政策論Ⅰ」、「歴史の中の政治と人間」、「現代政治分析への招待」などからなっており、基礎論にくらべて、より専門性の高いテーマを扱っているが、特別な予備知識がなくとも履修できるように配慮がなされている。具体的には、国際政治や行政、政治思想などについて講ずるものや、政治現象を分析するためのさまざまなモデルや手法の紹介がなされるものがある。

「基礎ゼミナール」では、主としてゼミ形式で、基礎的文献の講読や各自の研究報告などをおこなうこととなっている。特別な予備知識などは必要ないが、受講者の積極的な参加が望まれる。なお、基礎ゼミナールは後期に開講されるが、前期には政治学関係のILASセミナーとして「公共政策論Ⅰ」「国際政治論」が開講されている。ゼミ形式の授業に興味がある人は、基礎ゼミナールだけでなく、これらのILASセミナーの履修も推奨する。

③ 経済学関係科目の分類

経済学関係科目は、基礎的な内容を中心とする基礎科目、より限定されたテーマを取り扱う各論科目、および少人数で講読・研究発表などを行なう基礎ゼミナールで構成されている。

基礎科目は、「経済学Ⅰ」において、そもそも経済とは何かという視点から、幅広く経済を見る目を鍛えることを目指す。また「経済学Ⅱ」においては、現代経済の諸問題をどう考えるかという視点から、諸課題の把握・理解を目指す。それぞれ、経済思想史、マルクス経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学という4つの観点から、「経済学Ⅰ」において長

い射程で経済そのものを論じ、「経済学Ⅱ」においてより現代的な諸課題について考える。「経済学Ⅰ・Ⅱ」はいずれも「基礎論」的性格をもつが、ここで「基礎」とは、必ずしも初学者のための「初歩」、あるいは経済学部におけるカリキュラムの「初級」を意味しない。予備知識を必ずしも必要としないが、経済学の基礎となる思考法を理解してもらうことを目標とする。なお歴史・文明分野の基礎科目「現代文明Ⅰ・Ⅱ」も、狭義の歴史学に収まらない分野横断的な視点から経済文明の原理を探るものであり、併せて履修することが望ましい。

各論科目は、「社会経済システム論」、「現代経済社会論」、「公共政策論Ⅱ」などがあり、政治・社会など隣接諸分野との関連（インターフェイス）、現代との関連（フロンティア）をより強く意識した講義を提供する。

基礎ゼミナールは、少人数で講読や研究発表を行なうゼミ形式の授業であり、全学部・全学年にわたる学生が一堂に会して議論できる稀有な空間である。受講者には主体的な参加が望まれる。前期の ILAS セミナーを履修した学生が後期に本ゼミナールを続けて履修することで、より学修が深められるよう工夫されており、ILAS セミナーと組み合わせた系統的履修が望ましい。